

夏場の利用料金値上げ

町営キャンプイン海山

オートキャンプ場条例の一部改正は、利用料金を県内の類似施設に合わせ値上げし、季節で異なるシーズン料金制を導入する。利用が増える夏場は料金を値上げ、冬場の閑散期は値下げすることで、通年の利用増と収益増を図る。料金改正は1998（平成10）年のオープン以来初めて。

新料金制は春（4月～6月）、夏（7月～9月3日）、秋（9月～11月）、冬（12月～3月）に分け、春と秋を通常期とし、夏の繁忙期は25%値上げ、冬の閑散期は25%引き下げる。年末年始は通常期の料金とする。

条例で最高額となる繁忙期の料金を設定、通常期と閑散期は町と指定管理者が協議して決める。繁忙期の林間オートサイト料金は1850円となり300円（19・3%）の値上げ、8人用テーシは7500円（48・3%）値上げして2万3000円となる。

キャンプ場の2015（平成27）年度実績は収入5720万円、支出4701万円、差し引き1019万円の黒字。00年度から16年黒字が続いている。

15年度は紀勢自動車道の全線開通や銚子川の知名度アップなどで利用者数もオープン以来最高の日帰りキャンプを含め2万4942人。7、8月で全体の67%を占める。

施設は敷地約3万5千平方メートルに管理棟、コテージ15棟（5～8人用）、リバーオートキャンプサイト40区画、林間オートサイト30区画、炭火焼きハウスや炊事棟、トイレ棟、木工アート広場、芝生広場。運営は指定管理者のNPO法人ふるさと企画舎（田上圭理事長）。

南海日日新聞 2017.3.5

近隣議員 値上げて利用客が減る心配はないのか。

石倉充能商工観光課長 県内でもシーズン料金を設定している施設もあり、夏の繁忙期の混雑を避け、冬場の料金を下げて利用を促進したい。指定管理者と相談した。

近隣議員 利用料の増収は見込めるのか。

石倉課長 2015年度の収入実績から試算して料金改定で約730万円の増となる。指定管理者への報償費を差し引き約220万円が町の収入増となる。

町長 10、11月でもイベントを張る利用客がある。閑散期の料金を

値下げすることで、通年性の利用を期待している。遊泳だけでなくトシキングなど銚子川流域の自然を楽しむ人も増えており、オフシーズンに使いやすい料金設定が目的。

樋口泰生議員 利用者は町内か町外のどちらが多いのか。町外から利用客を誘致するために平日の利用料金を値下げすることも考えるのか。

石倉課長 利用のほとんどが町外客。町内の利用客が見込める（日帰りの）デイサイトは料金を据え置く。繁忙期は通常期より25%値上げし、閑散期は通常期より25%値下げる。